

沼津市教育講演会

令和5年3月15日(水)、静岡大学の武井敦史教授をお招きし、教育講演会を開催しました。

以下、講演内容の概要です。

1. 人口減少という問題

架空の町を例に挙げ、人口や税収が半減することによる課題等を深掘りし、「未来に向けてどのように課題を解決していけばよいのか」と参加者に投げかけました。

2. 児童生徒数の減少と学校教育

文部科学省が策定した手引きを正確に理解することの必要性とともに、武井先生の経験を基にした学校の実態についてお話しいただき、今後の展望を示されました。

3. 行政への誤解と課題

様々な地域で学校統合に関わってきた経験を基に、行政側の視点と、行政の課題の両面から解説され、文部科学省の手引きを参照しながら最適解を導くための提案を示されました。

4. 学校統合と地域

学校統合における地域にとっての懸念と検討の上で重要な視点について解説があり、「地域にとっても、子供たちにとっても、よい学校を作っていくために必要なこと」を示されました。

5. これからの議論に向けて

講演のまとめとして5つのポイントを挙げ、「未来を起点に話し合う」ことの重要性を説かれ、講演を閉じました。

6. 質疑応答

参加者の皆様から以下のような意見や質問をいただきました。

- ・複式学級のメリットを含め、生徒の立場から統合を考えることの必要性について
- ・保護者と地域の間で統合に対する意見のずれが生じた際の、協議の上手な進め方について
- ・統合の協議を進める上で、行政側の横断的な組織を構成する方法について
- ・探究的な学習について
- ・部活動の地域移行について

次頁からは、当日資料の抜粋です。



沼津市教育講演会

少子化時代における公教育の在り方
～市民と共に子どもの未来を考える～

2023年3月15日(水)

武井敦史

人口減少とはどんな問題か？

こんな町を想定してみましょう

A町

人口10000人 面積10km²



B町

人口1000人 面積10km²



私の感覚では・・・(小学校の場合)

- 2～3数学級で一学級20～25人程度が理想
 - 各学年が単学級でも20人程度規模が安定的に確保されていれば大きな問題はない
 - 100人を切ると問題は急速に顕在化(入学以前の保護者が転居を考え始める)
 - 複式学級が出始めると課題は一層深刻に
 - へき地には特有の強みもある
- 「協働的な学び」は小規模校にとって課題に
○「ICTの活用」は小規模校に特有の効果あり

行政への誤解と本当の課題

行政への（ありがちな）誤解

- ① 行政は権力を求める
- ② 学校統合をすると市の財政が潤う
- ③ 無駄をなくせば財源は確保できる

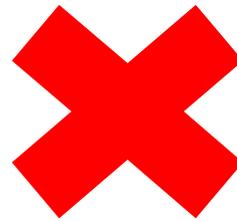
行政の落とし穴

- ① 県教委と市教委、市と教育委員会の関係
- ② 経験値の不足と担当者の異動
- ③ 「前例」と「標準」がないと計画が立てられない
- ④ 脆弱なマネジメント部門

課題の基本構造

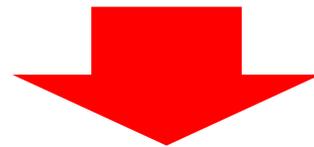
検討すべき**条件**

現在の学校配置
児童生徒数予測
校舎の築年数
市予算への影響
交通確保条件
人口分布
学校地域の伝統
他の公共施設分布
定数配置・活用



未来に向けた**可能性**

義務教育学校・一貫校
活動拠点の分散化
放課後子ども教室
ICTの活用可能性
地域活動のカリキュラム化
地域の学校運営参画
学校間連携
施設の転用可能性
学校の多機能化



議論を重ね市と地域にとっての最適解を

まとめ

- ① 現状維持では「ジリ貧」に
- ② 犯人探しをやめよう
- ③ 未来を起点にして話し合おう
- ④ 二者択一ではない
- ⑤ 使えるものは何でも使おう